

ゲリラ豪雨展・雨といきもの展 全国75館巡回企画展示

水の巡回展ネットワーク

活動の概要

ゲリラ豪雨をはじめ雨に関する事象がもたらす災害と防災への意識向上のニーズを受け、これまでになかった新しい企画展ユニット「ゲリラ豪雨展」を制作し、全国の川の資料館や博物館に巡回する取り組みを行っています。活動開始から現在までの約6年間で、全国43館に巡回しました。また、生物にとっての恵みの雨をテーマに制作した「雨といきもの展」は全国32館に巡回しました。河川に関する資料館、自然史系博物館・科学館、防災関係施設など、北海道から沖縄まで展示を巡回した施設は合わせて75館になります。いずれの企画展ユニットも貸し出しは無償。テーマの関連イベントを同時開催する等、現場のニーズにも対応しながら巡回は現在も継続中です。開催時には展示担当者や利用者のニーズを調査し、その結果を反映しながら多くの施設で共有できる効果的な展示の実現を目指して活動を続けています。

活動の目的

わが国は全国各地に100を超える河川に関する資料館や博物館を有する世界有数の水辺のミュージアム保有国。これらの施設は自然、歴史、風土を体験できる地域や学校の学習拠点等として活用されています。しかし小規模な施設も多く、財政面を含め様々な面でその運営は厳しくなっているため、展示物の陳腐化・老朽化も著しく、地球温暖化やゲリラ豪雨等の現代的課題に対応した展示の充実を図るには個別の施設では限界があります。

そこで、巡回型の展示を開発し、各地方に貸し出し企画展として展示内容の充実を図ることを目的に、大学生、教員、研究員、気象キャスター、展示プランナー、河川管理者等の有志からなる「水の巡回展ネットワーク」を結成し、全国で活動を展開しています。各地の展示においては、その地域の災害の発生状況等の資料の追加や気象キャスターによる講座の開催等を行い、企



水の巡回展ネットワークのロゴマーク

画展としての充実に努めています。

これまで防災や環境をテーマにした展示は、それぞれの施設で独自につくられ、ノウハウが共有されることがありませんでしたが、この活動の中では巡回時に実施する調査の結果を反映し、より効果的な展示の考え方や方法を提案し、全国の施設を介して防災・環境に関する知識を普及・継承していくことを目標としています。防災教育の必要性が強く認識される中、各地から要望も増えているため、それらに対応していけるよう、わかり易く効果的な展示の実現を目指しています。

展示の制作と巡回の運営

水環境や気象、デザインに関する分野の専門家が集まって防災教育に役立つ巡回展示物を開発します。そして、展示を全国の施設に貸し出す取り組みを実施し、関連施設への新しい展示の導入や質の向上、施設の活性化を図ります。そのプロセスでは、より効果的な展示



企画ミーティング



展示の運搬



ゲリラ豪雨展の映像展示

の考え方や方法を提案し、全国の施設の展示に活かすとともにその普及を図ることを目標としています。

これまで、河川整備基金（河川基金）、きれいな川と暮らそう基金等の助成に採択され、助成金とその他会費収入により活動を進めています。巡回に必要な費用は主に展示制作費と、展示運搬費・設営旅費です。運営メンバーは大学生が入学・卒業で入れ替わり、テーマによって専門家も加わるため変動しますが10～15名程度で、月1回のペースでミーティングを行っています。

【ゲリラ豪雨展】

小学生が下校中にゲリラ豪雨に遭遇するストーリー展示「ある夏の日」、雨粒発生装置による実験映像「雨粒クイズ」、雷雨の全方向サウンド「聴き雨」、映像で

降ってくる雨をはじくインタラクティブ映像「ひかりあめ」、500mlのペットボトル100本分の水を持ち上げて体感する「30ミリの雨がたたみ一畳に降ったら」等の様々な体験展示から構成されています。ゲリラ豪雨による河川の急な増水、アンダーパスやマンホールの危険性、身を守るための対策等についてもパネルや映像でわかりやすく説明しています。

【雨といきもの展】

いろいろな生き物の雨との関わり方の多様さを知り、雨とのつきあい方を考える内容。日本の雨の特徴、雨に関する研究成果などのパネル、雨といきものに関する絵本展示やクイズ、雨音の楽器などの体験展示で構成されています。注目は映像で降ってくる雨の言葉と触れ合



ゲリラ豪雨展ポスター



雨といきもの展ポスター



雨といきもの展のインタラクティブ展示



展示方法の検討

うインタラクティブ展示「ことばあめ」。3匹のカエル「アマツツ楽団」と一緒に雨と生き物の関わりを知る旅に出ます。

上記展示の各施設への貸し出しは無償とし、メンバーが設営や運営の支援を行っています。初年度は「ゲリラ豪雨展」の制作を行い、2年目から河川に関する資料館、自然系の博物館、科学館等を巡回しています。次の施設へ順々に引き継いでいくリレー方式で切れ目なく巡回しており、最初に制作したゲリラ豪雨展は約5年で43館、次に制作した「雨といきもの展」は約4年で32館、巡回先は合わせて計75館（※）にのぼります。

（※複数回開催している施設があり延べ75館。）

現在は巡回を継続しつつ、今までの展示のノウハウの集大成である「雨展～あらぶる雨とめぐみの雨～（仮）」の制作に向けコンセプトから議論を始めているところです。引き続き、全国の施設において巡回企画展示を開催し、災害や環境についての知識や情報の普及・啓発を行います。

活動のニーズ

わが国は世界有数の川の資料館・博物館の保有国。しかし、小規模な館も多く、近年は財政面を含め様々な面で運営が厳しくなっているため、新しい展示の企画・制作のサポートが必要とされています。

ゲリラ豪雨による災害や防災への理解は、近年特に話題性、緊急性の高いテーマであり、そのニーズを受けて、水環境や気象、デザインの専門家の有志からなるチームで巡回型の展示を開発し、各地に貸し出し、展示の充実と施設の活性化を図っています。

豪雨災害については専門的な資料は数多く発行されているものの、一般向けにわかりやすく表現した展示



設営の作業

や教材は極めて少ない状況です。当該テーマの展示制作においては複数の専門領域からのアプローチが必要であり、個別の施設で企画・制作にあたるのは困難な状況です。時間も予算もかかります。展示の巡回で防災や環境問題への意識啓発を図る取り組みは初めてですが、今後の予定を含め75館からリクエストを受けてきたことから、この取り組みの必要性和意義を強く感じています。

活動の効果と社会への波及効果

学生がデザインしたキャラクター、体験的な展示への反響は大きく、多くの地域の新聞やテレビ報道、口コミによって貸し出し希望が増えました。近年の豪雨災害の状況、対策の強化等、水環境の科学的な特性のみならず、人の関わり方を伝える防災教育、環境教育は水循環系の健全化を図る上での重要な課題です。

国内に100以上ある河川やダムをテーマにした施設の展示機能のポテンシャルを活かすことで、防災教育、環境教育を広く効果的に展開することができます。この取り組みを通じて開催館どうしが繋がるきっかけもつく



オフィシャル・ウェブサイト

ることができました。巡回先では、展示設営を支援するだけでなく、常設展の充実や改良についての相談も受け、展示のリニューアルにも貢献しています。一方、防災や雨水貯留・浸透、下水道関連の行事と同時開催したり、お天気教室等のミニ講座の講師を派遣したりする等の支援も行っています。

巡回、開催状況については、オフィシャル・ウェブサイト (<http://www.a-rr.net/jp/jawanet/>)、SNS (<https://ja-jp.facebook.com/jawanet/>) により適宜発信しています。

活動継続のための工夫

専門的な内容をわかりやすく展示に表現するため、環境教育やグラフィックデザイン・映像メディアを専門とする学生と教員、展示プランナー、気象キャスター、河川管理者等がコラボレートしてアイデアを出し合うことで、今までにない展示の開発が実現しました。また巡回のプロセスでは現場のニーズを把握するための調査



ゲリラ豪雨展を楽しむ親子



雨といきもの展を設置する大学生

を行い、新しい技術を取り入れた体験型の手法、強化段ボールを使ったコンパクトな什器の導入等、展示の質の向上や運営の効率化に役立てています。当初、展示物には大掛かりなものもあり、設営に苦労しましたが、軽量で折り畳めるものに改良することで、短時間で手際よく設営・運搬ができるようになりました。

メンバーは全国で開催地のサポートに向かい、地域において、河川や防災に関する新しい知識も得られるため、自身の研鑽ができ、楽しく活動できていることも活動継続のポイントかもしれません。

今後の展望

「ゲリラ豪雨展」「雨といきもの展」については、開催希望が多く寄せられており、引き続き各施設への巡回を行います。またこれまでの巡回企画展示から得られた展示ノウハウを活かした新しい展示ユニットを開発し、より広く展開していくつもりです。

これについては現在「雨展～あらぶる雨とめぐみの雨～(仮)」として企画が進んでおり、現場の技術者や研究者とコラボレートしながら新しい展示の見せ方を議論していく予定です。これには制作費が必要であり、資金調達も含めて検討を進めています。

将来的には、離島や開発途上国等、教育が行き届かない国や地域への巡回も視野に入れています。今後も多くの現場での調査を重ね、展示の質と巡回の効率を高めていきたいと考えています。

水の巡回展ネットワーク